

平成 27 年度第 2 回愛媛地域医療ビジョン推進戦略会議 議事概要

1 日 時 平成 28 年 1 月 20 日（水）19:00～

2 場 所 県医師会館会議室

3 出席者 委員 8 名

4 議 事

(1) 地域医療構想策定に係る制度概要と推計について

○事務局から資料に沿って説明。

○必要病床数の推計結果は、今後どのように取り扱うのか確認したい。数値よりもどのように取り組んでいくかが大事。

⇒【事務局】

国の示す計算式・数値によれば、将来どれくらいの入院患者数や病床数が見込まれるかというもの。この傾向を見ながら、マーケティングとして各地域で医療提供体制を検討していただきたいと考えている

○回復期における東京都区西部から松山圏域への流入はどういう事情のものか。

⇒【事務局】

統計数値による動きは分かるが、個別の事情までは示されていない。おそらく一過性のものではないと考え、本県の医療需要に加算している。できる範囲で調査はしてみたい。

○必要病床数は事務局案（高度急性期は医療機関所在地ベース、急性期、回復期及び慢性期は患者住所地ベース）を採用することで、了解を得た。

(2) 地域医療構想（パブリックコメント案）について

○事務局から資料に沿って説明。

○盛り込んでいる施策を実現するための取組みは、今後どのように具体化していくのか。

⇒【事務局】

今後、各圏域では調整会議を中心に検討・協議しながら具体化を図っていただくようになる。本会議では、各調整会議に対して支援や助言をいただくとともに、将来の医療提供体制について引き続き御議論いただきたいと考えている。

○各圏域で議論してやっていくことも大事だが、圏域で括るのも無理があり、全県的に考えるべきではないか。松山圏域からその他の圏域に移動させるのは難しいのでは。

⇒【事務局】

松山圏域からその他の圏域に移動させることを考えているものではなく、地域で完結できる部分と広域的に連携する部分のバランスを取りながら、県民が安心して医療が受けられる体制をつくっていきたいと考えている。

○2025年にはどういうニーズが出てきて、このニーズにどう対応していくかということであるが、介護と救急医療が今後のポイントになるかと思う。人材育成も盛り込まれているので、県主導で取り組んでいただければ。

○住民目線でどうあるべきかということを考えていく必要がある。

○PR版では、必要病床数に関する説明を工夫して分かりやすくした方が良いのではないか。

⇒【事務局】

検討する。

○今後、必要病床数は変えていくのか。

⇒【事務局】

必要病床数の推計は、今回定めれば変更しない。病床機能報告制度で毎年病床数が報告されるので、現状と将来を比較しながら取組みを検討していただく。

○必要病床数に向かってどこの医療機関がどのように取り組んでいくかは、各医療機関が自ら考えて取り組んでいくようになるのか。

⇒【事務局】

将来に向けた傾向を見た場合に、各医療機関が将来を考えて様々な自主的な取組みが出てくると思う。自主的に取り組んでいただくが、各医療機関任せにするのではなく、地域医療介護総合確保基金を活用した支援などに取り組んでいきたい。また、本会議では、大所高所から将来の姿について御議論いただいて、各地域が取り組む医療提供体制の構築の参考にしていただければと考えている。

○地域枠医師も出てきつつあるが、医師としての養成には時間がかかる。現在救急医療を支えている医師が今後高齢化するなかで、2025年の前後で需給のバランスにギャップが生じるのではないかと考えている。

○各医療機関の自主的な取組みのなかで、大学附属病院やがんセンター、松山赤十字病院をはじめとして、各医療機関でそれぞれに使命があるので、はっきりさせておいた方が良い。

⇒【座長】

この構想の中で縛るものではないので、今後を見据えてきちんと示していけばよい。

○いただいた御意見をもとに一部修正することとして、修正については座長と事務局で対応することとした。

○今後の流れについて、パブリックコメントの実施、保健医療対策協議会及び医療審議会の開催とともに、本会議委員からは2月22日（月）を目途に配付の様式により御意見をいただきたい旨を説明し、了解を得た。